

那覇市版SIB導入による効果

別紙2-1



多くの関係者の参画により
成果達成を実現

SDGs達成につながる協働活動を創出

SIBの
実施



市民が共感・賛同する
事業へ「出資」

成果達成にて投資した
市民へ出資金を還付



出資者が事業に参画する



実施団体



市民

自分たちについて知ってもらう



事業について
適正な評価の実施

継続して応援、会員になるなどの実施団
体との関係性の強化



中間支援・伴走

資金や人手が不足して
活動が継続できない



【現状】

- ・継続した寄付や資金提供を行う文化がない
- ・市民活動についての興味が少ない方がまだ多い
- ・ファンドレイズの仕組みが成熟していない
- ・広報まで手が回らない



NPO等の課題を早期に発見し、
専門性を持って活動する人たちが登場



- ・貧困
- ・少子高齢化
- ・孤立化
- ・ライフスタイルの変化
- ・地球温暖化 等



貧困対策 孤立防止 多文化共生
市民の健康問題 インフラの維持
防災対策・災害対応 DX化 etc.

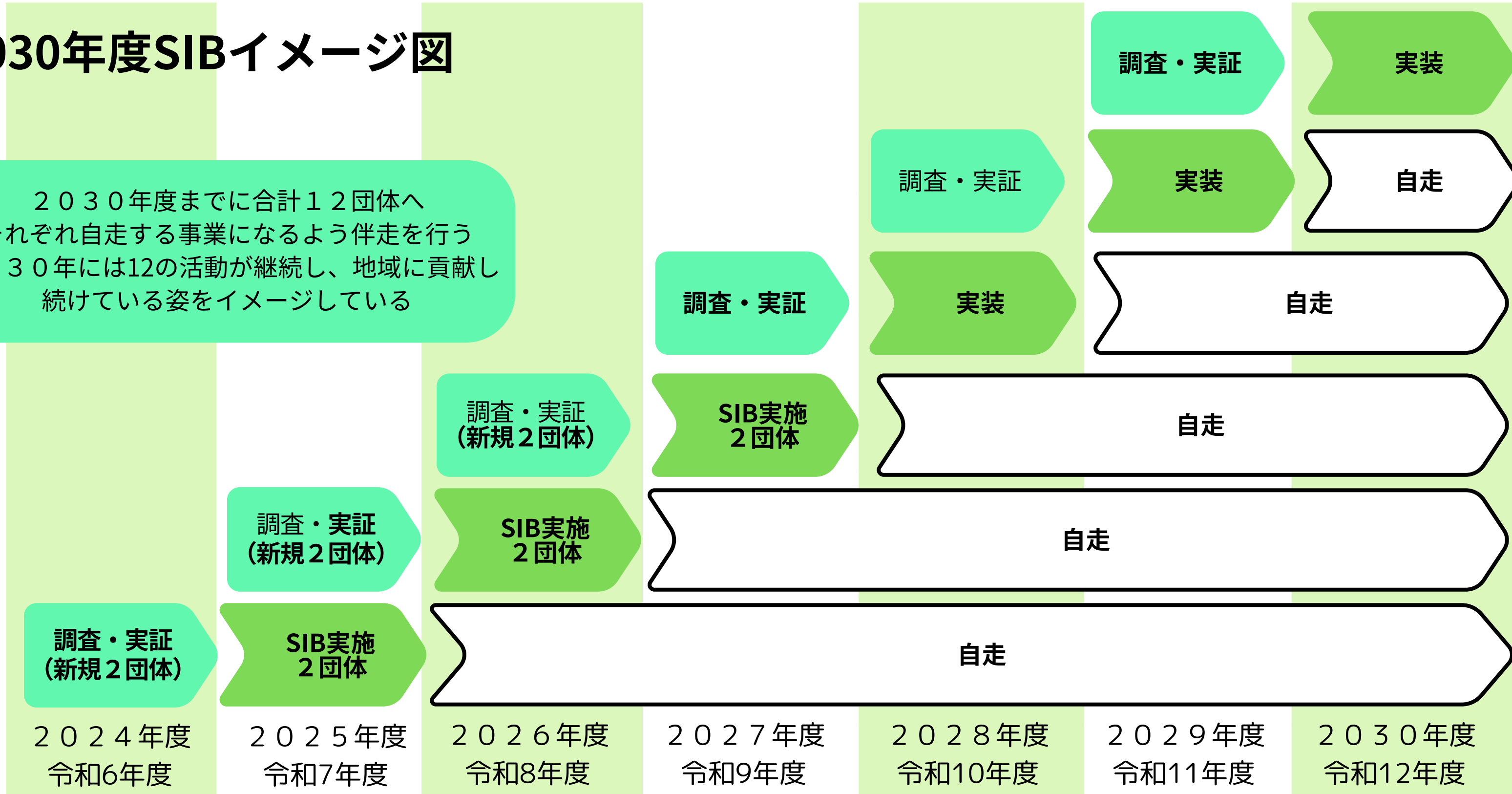


- ・資源（資金、人手）不足
- ・制度の複雑化

活動が継続しにくい「現状」を変化させ、実施団体の活動を市民が理解し、継続した活動へ
つなげ、各活動が地域の必要不可欠な事業（活動）になるような取り組みを推進する

2030年度SIBイメージ図

2030年度までに合計12団体へそれぞれ自走する事業になるよう伴走を行う
2030年には12の活動が継続し、地域に貢献し続けている姿をイメージしている



- 調査・実証** 1年目：SIBに向けての調査・実証事業へ50万円助成
- SIB実施** 2年目：SIBによる資金調達（上限50万円）、事業の実施

審議会にて採択された団体には2年間の伴走を実施。準備期間を設け、調査・実証を行い、体制を整えたうえでSIBを実施する。
調査・実証のサポートとして専門家による伴走支援（事業ビジョンのブラッシュアップ）や地域円卓会議にて実施団体の取り扱う社会課題を地域で考える機会を提供する。